

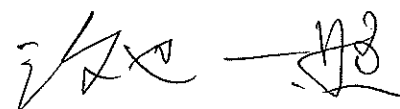
代 表 者
林 田

研 修 報 告 書

令和5年11月6日

会 派 代 表 者 様

呉市議会議員



次のとおり研修に参加したので報告します。

1. 研修期日

令和5年11月1日（水）

2. 研修項目

中核市サミットin宇都宮

3. 参加議員

渡辺 一照

■研修項目

- ・基調講演「未来世代に向けた交通と都市計画」
講師 早稲田大学理工学術院 創造理工学部 森本章倫教授
- ・パネルディスカッション
テーマ：脱炭素化で「未来世代につなぐ」まちづくり
コーディネーター：早稲田大学 理工学術院 先進理工学部 林泰弘教授
コメンテーター：早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 森本章倫教授
- ・研修日
令和5年11月1日（水）13時～17時

【研修内容、呉市での展開の可能性】

「未来世代への責任と実践」「夢や希望が叶う中核市を目指して」

上記のテーマを掲げた中核市サミットに行きました。

中核市の数人の市長と中核市の市議会議員が、約800名近くが、宇都宮市に集まりました。

宇都宮市は、今年、市内の西側に路面電車：LRTを作りました。

LRT（次世代型路面電車システム）とは、「Light Rail Transit（ライト・レール・トランジット）」の略称で、各種交通との連携や低床式車両（LRV）の活用、軌道・停留場の改良による乗降の容易性などの面で優れた特徴がある次世代の交通システムのことです。

新しい街づくりを始めた様子がうかがえて、大変興味深い都市構造の変化が見込まれます。

完成までは、市民としては、賛成は少なくできてからは、反対側の旧市街地までの延伸を望んでいるようです。

中核市サミットの基調講演では、未来世代に向けた交通と都市計画を題材にして日本都市計画学会会長の早稲田大学教授の森本章倫先生が講演をしてくださいました。

持続可能な都市の発展に向けた協働の考え方

都市会合のコミュニケの3要素（社会・空間・技術）の視点

未来の都市空間を考え、人口推移による人口以上に拡大した市街地

都市の色々な様々なリスク、都市衰退は、空き家でわかる。

中核都市の財政状況の現状・把握、少子高齢化による財政状況の悪化、自然災害への対応

ネットワーク型コンパクトシティ・都市マスタープランによる人口減少下の都市・交通施策

次世代交通は、ICTでつながり、個々の交通の役割

新たなライフスタイルの出現があり、コロナ過でその傾向がさらに加速化しました。

若者の移動回数・距離等が減り、人の代わりに物が動く時代になってきた。

上記のような問題提起と予想を講義していただきました。

呉市においても、公共交通機関・民間輸送機関等との連携をして都市構造を考えていかねばならないことを実感しました。

パネルディスカッションでは、脱炭素化で「未来世代につなぐ」まちづくりとして松江市の上定市長が、たたら製鉄に由来する資源循環型農業や松江市とコラボして民間企業も参加する連携を強化点としてアピールポイントとしていました。

岡崎市市長は、「どうする家康」などの徳川家をイメージして都市計画を考え、三菱自動車等とカーボンニュートラル社会に向けての連携を図っているそうです。

奈良市の仲川市長は、古都であり、自然に囲まれている状況の都市であるので、再生エネルギーの太陽光発電、風力発電、バイオマスなどのポテンシャルを高めています。

地元の宇都宮市の佐藤市長は、「スーパースマートシティ」を考え、ライトラインなどを進めていけば、脱炭素につながりますと説明していました。

各都市が、いろいろな工夫をその地域にあった脱炭素を考えていることが分かり、呉市でも更なる推進が必要だと感じました。